

2.学会発表

厚生労働省「強皮症における病因解明と根治的治療法の開発」研究班・第6回強皮症研究会
 協議合同会議

表 強皮症に伴う偽性腸閉塞に対するオクトレオチド投与の報告

報告者	報告年	発症から投与までの期間	投 与 方 法	治 療 経 過
Soudahら	1991	記載なし	50 μ g/日 3週間	5例中5例が症状改善
Peterら	1993	1年	50 μ g/日 11ヵ月	11ヵ月後、消化管穿孔のため死亡
Kobayashiら	1993	2年	50 μ g/日 3週間 その後100 μ g/日隔日	隔日投与後、再燃。50 μ g/日に戻し、一時改善したが、再燃。
山本ら	1994	5年	1日目 25 μ g/日 2日目 40 μ g/日 3~5日目 50 μ g/日 6~21日目 100 μ g/日	3ヶ月間、再燃なし。
Verneら	1995	記載なし	50 μ g/日 エリスロマイシン 600mg/日併用	5例中4例が症状改善
植木ら	1996	7年	山本らと同じ	1年6ヶ月間、再燃なし。
		9年	1~2日目 50 μ g/日 3~21日目 100 μ g/日	8ヶ月間、再燃なし。
近藤ら	1996	13年	50 μ g/日	中止後再燃。再開後は反応せず。
		2年	100 μ g/日 その後隔日投与	腹部不快感のため中止。再燃なし。
Perlemuterら	1999	21年	50 μ g/日 その後100 μ g/日	3年間、再燃なし
Descampsら	1999	4年	75 μ g/日 2年間	中止後1年間、再燃なし
Malcomら	2001	7年	50 μ g/日	5日後、消化管穿孔
自験例	1994	17年	100 μ g/日 症状改善後、2回/週まで漸減	4年間、再燃なし。4年後、食欲低下し在宅IVH。IVHからの感染のため死亡。
	1999	6年	100 μ g/日 症状改善後、2回/週まで漸減	下痢のため中止。3年間、再燃なし。

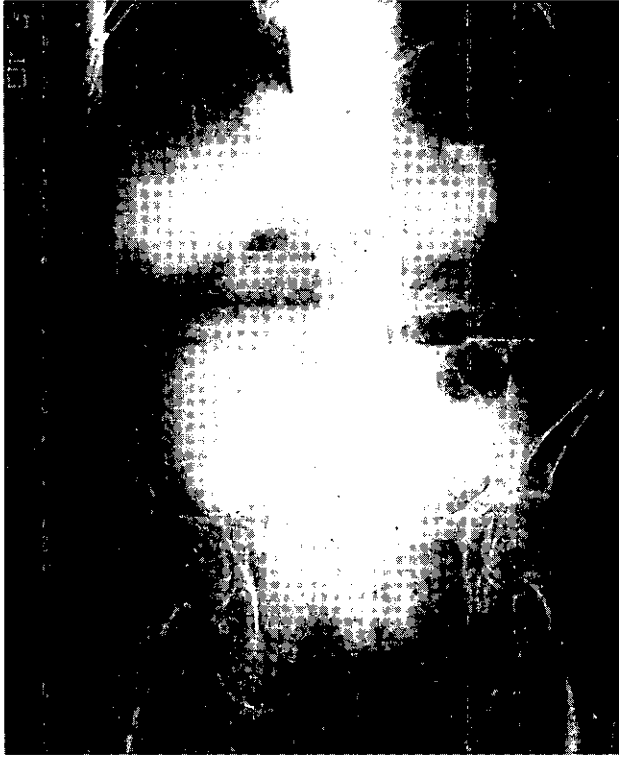


図 1. 入院時腹部単純X線像(症例 1)
鏡面像を形成した腸管内ガス像を認める.



図 2. 初診時腹部単純X線像(症例 2)
鏡面像を形成した腸管内ガス像を認める.

厚生労働科学研究費補助金(特定疾患対策研究事業)

分担研究報告書

食道狭窄に対しバルーン拡張術が奏効した汎発性強皮症の1例

分担研究者	尹 浩信	東京大学医学部皮膚科学講座講師
協力者	蘆田龍一	東京大学医学部皮膚科学講座助手
協力者	山根謙一	東京大学医学部皮膚科学講座大学院生
協力者	鹿田純一郎	東京大学医学部皮膚科学講座助手
協力者	矢澤徳仁	東京大学医学部皮膚科学講座助手
協力者	玉置邦彦	東京大学医学部皮膚科学講座教授

研究要旨

We experienced a case of systemic sclerosis with severe esophageal stenosis. We chose the endoscopic esophageal dilatation to the therapy. This therapy was very effective.

今回われわれは汎発性強皮症に伴う逆流性食道炎に生じた強度の食道狭窄に対し内視鏡下のバルーン拡張術を行い、著効した一例を経験したので報告する。

症例は35歳、女性で美容形成の既往はなく、有機溶媒との接触歴もなし。現病歴は、1993年に両側性三相性のレイノー症状、皮膚硬化の出現、抗トポイソメラーゼI抗体陽性、皮膚病理組織像より汎発性強皮症と診断されている。2001年当科初診。諸検査より、抗トポイソメラーゼI抗体、抗SS-A抗体、抗U1-RNP抗体陽性、肺線維症と逆流性食道炎を合併していた。2002年5月初旬より強い嚥下困難感を訴えたため上部内視鏡を行った所、噴門部直上に強度の狭窄を認めた。そのため、2002年7月2日上部消化管内視鏡によるバ

ルーン拡張術施行目的に当科入院となった。

入院時の現症では強指症があり、手背、前腕、下腿伸側、顔面に皮膚硬化を認めた。Modified-Rodnan total skin scoreは9点。両側性三相性のRaynaud症状、手指屈曲拘縮、びまん性色素沈着、舌小帯短縮を認めた。指尖部虫喰状癬痕は認めず。全指の爪上皮延長と爪郭部出血点を認めた。

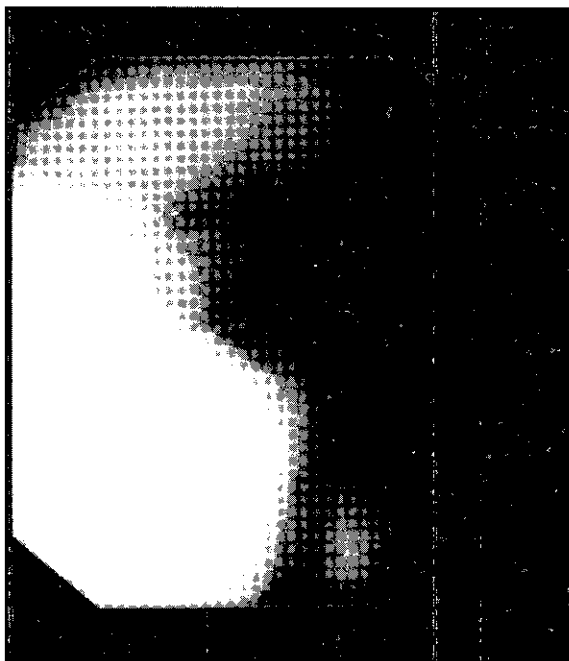
臨床検査所見では血算では白血球は1万400と上昇し、血小板も48万と上昇を認めた。肝腎機能に異常無くCRP2.2mg/dl、血沈52mm/hと炎症所見を認めた。RAテストは陰性。血清学的検査ではIgG1706mg/dlと高値であった。抗核抗体320倍陽性でHomogeneous、Speckled、Nucleolar patternを示した。特異抗核抗体は抗トポイソメラーゼI抗体、抗U1-RNP抗体、抗

SS-A抗体が陽性であった。

胸腹部CTや胸部腹部エコー、胸腹部X線、呼吸器機能検査では異常は認めなかった。

7月11日上部内視鏡によるバルーン食道拡張術を行った。術前の食道内視鏡所見を示す。噴門部直上で食道内腔の径は5mmと、狭窄が著明であった。(図1)

図1



術後、4日間の絶食を行った。発熱や疼痛、出血等は無く良好に経過。7月18日、さらなる拡張が可能と考え、再度拡張術を施行した。

経過は良好で、7月25日に上部内視鏡を行い、(図2)出血や裂傷等の異常が無いことを確認した。そのときの内視鏡所見を左に示す。術後通常通りの摂食が可能になったことを確認し、退院とした。術後半年が経過したが、摂食困難感は再発していない。

図2



厚生労働科学研究費補助金（特定疾患対策研究事業）
分担研究報告書

強皮症様慢性 GVHD 5 例の臨床的解析

分担研究者 佐々木哲雄 国際医療福祉大学附属熱海病院皮膚科教授
協力者 内田敬久 横浜市立大学医学部皮膚科
協力者 山田淳子 横浜市立大学医学部皮膚科
協力者 宮本秀明 神奈川県立がんセンター皮膚科部長

研究要旨

男 3 例、女 2 例。骨髄移植後 18 ± 4.4 ヶ月で皮膚硬化が出現（年齢は 33 ± 9.6 歳）。皮膚所見は全身性強皮症(SSc)様、筋膜炎様、斑状強皮症ないし硬化性萎縮性苔癬様、著明な色素増強脱失、SLE 様、など多彩。抗核抗体は 3 例で陽性、うち 2 例は骨髄移植後に陽性化し、うち 1 例は陰性化。Raynaud 現象、肺・食道病変はなく、皮膚硬化も 2 例で改善傾向。本症は通常の SSc と相違点もあるが、SSc 近縁疾患との類似点も多く、強皮症のモデルとして有用と思われる。

A. 研究目的

骨髄移植後などにみられる GVHD(graft-versus-host disease)では、移植後 5～70 日に発症し下痢、黄疸、紅斑などを呈する急性型と、100 日以降に発症し自己免疫疾患様の所見を呈する慢性型がある。一般に慢性 GVHD 患者の約 10%が強皮症様の皮膚硬化所見を呈する強皮症型とされている。今回は、これまで経験した強皮症様慢性 GVHD 患者を臨床的に解析し、強皮症との異同、強皮症のモデルとしての有用性を再検討した。

B. 研究方法

著者らが横浜市立大学医学部附属病院皮膚科で診察した強皮症様慢性 GVHD 患者 5 名を対象にした。

C. 研究結果

1) 患者の背景

患者の性別、原疾患、骨髄移植から強

皮症様慢性 GVHD 発症までの期間、発症年齢を表 1 に示した。男性 3 名、女 2 名で、白血病 4 名、悪性リンパ腫 1 名、期間は 12 ヶ月から 24 ヶ月（平均 18 ± 4.4 ヶ月）、発症年齢は 20 歳から 45 歳（平均 33 ± 9.6 歳）であった。症例 3 は、骨髄移植後に同じドナーからリンパ球輸注療法(DLI)を受け、その 11 ヶ月後に発症した。

2) 血清抗核抗体

抗核抗体の検査結果のまとめを表 2 に示した。4 名で検査し、3 名で陽性であった。症例 1 では陰性から陽性化し、抗セントロメア抗体陽性であった。症例 2 では陰性から陽性化(speckled pattern)し、その後陰性化した。症例 4 は調べ得た経過中は陽性 (speckled と nucleolar pattern) であった。抗 topoisomerase I 抗体、抗 RNP 抗体、抗 SS-A 抗体、抗 SS-B 抗体陽性例はなかった。なお、

症例1は抗リン脂質抗体症候群を伴い、ループスアンチコアグラント陽性であった。

3) 強皮症様皮膚所見

強皮症様皮膚所見のまとめを表3に示した。症例1では全身皮膚は軽度褐色調を呈し、皮膚硬化は両手指、手背から前腕部に認められた (limited SSc様)。症例2では境界明瞭な発赤を伴う手指の浮腫性硬化・屈曲拘縮と前腕の皮膚硬化、上腕の凹凸を伴う皮膚硬化 (diffuse SSc様)、躯幹の色素沈着・脱失を伴う硬化局面 (generalized morphea ないし硬化性萎縮性苔癬様)、舌小帯の白色軽度硬化を認めた。症例3では上腕、肩甲骨上の色素沈着・脱失を伴った硬化萎縮斑 (generalized morphea ないし硬化性萎縮性苔癬様)、前腕、下腿の硬化局面、躯幹の発赤あるいは色素沈着を伴う有痛性板状硬皮膚 (好酸球性筋膜炎様) を呈した。症例4は初期には頬部紅斑など全身性エリテマトーデス様所見を呈したが、四肢の皮膚硬化、一部がびらん潰瘍化し、肘関節伸展制限をきたした (diffuse SSc様)。症例4では全身の著しいびまん性皮膚色素増強と脱失、肘・肩関節の運動制限を伴う両上肢の皮膚硬化 (好酸球性筋膜炎様)、躯幹も含めたびまん性皮膚硬化 (diffuse SSc様) を呈した。

4) その他の所見

Raynaud 現象、肺・食道病変はみられなかった。症例1では急性脳梗塞、腸間膜動脈血栓症を生じ抗リン脂質抗体症候群を、症例2では眼乾燥症状を伴っていた。

5) 治療経過

症例1は外科で回結腸動脈血栓症に対して回結腸切除術が施行された。症例2はステロイドパルス、シクロスポリン、メトトレキサート、トラニラスト内服で皮膚硬化所見は

徐々に改善傾向を示した。症例3は入院してステロイドパルス、プロスタグランディン点滴静注を行い硬化所見はやや改善し、外来でエトレチナート内服を追加したが、なお残存している。症例4は入院して皮膚潰瘍に対する外用療法で上皮化した後にリハビリテーションを行い、関節可動域は著明に改善した。症例5は内服治療を希望せず、ヘパリン類似物質外用で経過観察中である。

D. 考案

抗核抗体に関しては19名の強皮症様慢性GVHD患者のうち18名(95%)で、18名の強皮症様変化を伴わない慢性GVHD患者のうち10名(55%)で、それぞれ陽性であったが、抗topoisomerase I抗体陽性の4名はすべて強皮症様変化を伴う患者であったという興味深い報告もある¹⁾。

症例3のように、骨髄移植後の再発患者に対して同じドナーのリンパ球注入を行った後に強皮症様慢性GVHDが発症する例の報告もみられている²⁾。

強皮症様慢性GVHDの発症機序として、CD8+CD57+T細胞の増加とTGF- β 産生の上昇を示した報告もある³⁾。

強皮症様慢性GVHDの治療としては、エトレチネート⁴⁾、PUVA療法⁵⁾、UVA1療法⁶⁾の有効例が少数ではあるが報告されている。マウスの強皮症様慢性GVHDモデルにおいては、抗TGF- β 抗体の投与により皮膚と肺の線維化が予防できたという論文⁷⁾も出されている。

E. 結論

以上のように、骨髄移植後の強皮症様慢性GVHDは通常のSScと相違点もあるが、限局性強皮症や好酸球性筋膜炎などのSSc近縁疾患との類似点も多く、強皮症の病態モデル、

治療モデルとして有用と思われる。

F. 文献

- 1) Bell SA, et al: Br J Dermatol 134:848-854, 1996
- 2) Jones-Caballero M, et al: Br J Dermatol 139:889-892, 1998
- 3) 中沢洋三他：臨床血液 39:185-192, 1998
- 4) Marcellus DC, et al: Blood 93:66-70, 1999
- 5) Woscoff A, et al: Int J Dermatol 35:656-658, 1996
- 6) Grundmann-Kollmann M, et al: J Am Acad Dermatol 42:134-136, 2000
- 7) McCormick LL, et al: J Immunol 163:5693-5699, 1999

G. 研究発表

- 1) 論文発表

辻 淳子、石井則久、佐々木哲雄、中嶋 弘：
強皮症様皮膚症状と抗リン脂質抗体症候群を
伴った慢性 GVHD 西日皮膚
60:54-57,1998

辻 淳子、佐々木哲雄、中嶋 弘：強皮症様
変化を伴った骨髄移植後 GVHD 皮膚病診
療 21:125-128,1999

内田敬久、佐々木哲雄、池澤善郎：強皮症様
皮膚を伴った慢性 GVHD 皮膚病診療
22:1047-1050,2000

宮本秀明、藤巻克通、佐々木哲雄、岡野絵里
子：Sclerodermatous chronic GVHD の1例
皮膚臨床 印刷中

2) 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

表1 対象患者の原疾患と骨髄移植後強皮症様慢性DVHD発症までの期間と発症年齢

Case	Sex	Disease	Onset (age) Scl chr GVHD	Duration after BMT
1	F	CML	45	19 months
2	M	ALL	29	24 months
3	M	ML	44	21 m(11 m after DLI)
4	F	ALL	20	14 months
5	M	AML	29	12 months

mean ± S.D. 33 ± 9.6 years of age 18 ± 4.4 months
 BMT: bone marrow transplantation, DLI: donor lymphocyte infusion

表2 抗核抗体の推移のまとめ

Case	Antinuclear antibodies
1	(-) → 640 (anticentromere antibody)
2	(-) → 1280 (speckled) → (-)
3	(-)
4	320 (speckled & nucleolar)
5	not done

表3 強皮症様皮膚所見のまとめ

Case	Type of skin sclerosis
1	limited SSc like
2	diffuse SSc & GM/LSA like
3	GM/LSA & fasciitis like
4	diffuse SSc & SLE like
5	fasciitis & diffuse SSc like, pig/depig

GM: generalized morphea, LSA: lichen sclerosus et atrophicus, pig: pigmentation, depig: depigmentation

研究成果の刊行に関する一覧表

【書籍】

	著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
1	竹原和彦	膠原病類縁疾患・全身性強皮症	宮地良樹, 古川福実	皮膚疾患診療実践ガイド	文光堂	東京	2002	347-349
2	竹原和彦	膠原病類縁疾患・限局性強皮症	宮地良樹, 古川福実	皮膚疾患診療実践ガイド	文光堂	東京	2002	350-351
3	竹原和彦	全身性強皮症	斎田俊明, 塩原哲夫, 宮地良樹, 渡辺晋一	今日の皮膚疾患治療指針, 第3版	医学書院	東京	2002	327-330
4	竹原和彦	皮膚硬化をみたら	小野友道, 宮地良樹, 瀧川雅浩	皮膚科診療プラクティス13発疹から病気がみえる	文光堂	東京	2002	63-67
5	竹原和彦	膠原病類症, ヒトアジュバント病	植木宏明, 富田 靖, 玉置邦彦, 飯塚 一	皮膚科専門医テキスト	南江堂	東京	2002	363-364
6	竹原和彦	膠原病と関連疾患, 全身性強皮症	玉置邦彦	最新皮膚科学大系 第9巻 膠原病, 非感染性肉芽腫	中山書店	東京	2002	86-105
7	竹原和彦	膠原病の概念 update (Klempererから半世紀を経て)	竹原和彦, 桑名正隆, 宮地良樹	新・膠原病診断と治療のポイント: 皮膚から内臓へ	診断と治療社	東京	2002	2-3
8	竹原和彦	好酸球性筋膜炎	竹原和彦, 桑名正隆, 宮地良樹	新・膠原病診断と治療のポイント: 皮膚から内臓へ	診断と治療社	東京	2002	190-191
9	竹原和彦	全身性強皮症—病型分類と重症度	竹原和彦, 桑名正隆, 宮地良樹	新・膠原病診断と治療のポイント: 皮膚から内臓へ	診断と治療社	東京	2002	238-239
10	藤本 学	強皮症, 特殊な病型と類縁疾患	玉置邦彦	最新皮膚科学大系 第9巻 膠原病・非感染性肉芽腫	中山書店	東京	2002	116-130
11	藤本 学	全身性強皮症と毛細血管拡張	竹原和彦, 桑名正隆, 宮地良樹	新・膠原病—診断と治療のポイント: 皮膚から内臓へ	診断と治療社	東京	2002	132-133
12	石川 治	強皮症(2)限局性強皮症	斎田俊明, 塩原哲夫, 宮地良樹, 渡辺晋一	今日の皮膚疾患治療指針, 第3版	医学書院	東京	2002	330-331
13	石川 治	限局性強皮症	多賀須幸男, 尾形悦郎	今日の治療指針 2002 (42巻)初版(ポケット版)	医学書院	東京	2002	750-751
14	石川 治	generalized morphea-like systemic sclerosis	竹原和彦, 桑名正隆, 宮地良樹	新・膠原病診断と治療のポイント: 皮膚から内臓へ	診断と治療社	東京	2002	178-179
15	関 姿恵, 石川 治	強皮症・限局性強皮症	玉置邦彦	最新皮膚科学大系 第9巻 膠原病・非感染性肉芽腫	中山書店	東京	2002	106-115
16	室 慶直	皮膚筋炎	玉置邦彦	最新皮膚科学大系 第9巻 膠原病・非感染性肉芽腫	中山書店	東京	2002	131-141
17	室 慶直	セントロメアの機能構造と自己免疫	編集者なし	第3回伊豆カンファレンス記録集	Excerpta Medica	東京	2002	56-74
18	佐々木哲雄	混合性結合組織病	玉置邦彦	最新皮膚科学大系 第9巻 膠原病, 非感染性肉芽腫	中山書店	東京	2002	155-159
19	佐々木哲雄	オーバーラップ症候群	玉置邦彦	最新皮膚科学大系 第9巻 膠原病, 非感染性肉芽腫	中山書店	東京	2002	208-210
20	佐藤伸一	レイノー症状, レイノー病	斎田俊明, 塩原哲夫, 宮地良樹, 渡辺晋一	今日の皮膚疾患治療指針 第3版	医学書院	東京	2002	341
21	佐藤伸一	レイノー症状	宮地良樹, 古川福実	皮膚科疾患診療実践ガイド	文光堂	東京	2002	363-364
22	佐藤伸一	ヒトアジュバント病	玉置邦彦	最新皮膚科学大系 第9巻 膠原病, 非感染性肉芽腫	中山書店	東京	2002	198-201
23	佐藤伸一	強皮症と動物モデル	竹原和彦, 桑名正隆, 宮地良樹	新・膠原病診断と治療のポイント: 皮膚から内臓へ	診断と治療社	東京	2002	22-23
24	尹 浩信	全身性強皮症—分類基準に含まれる皮膚病変	竹原和彦, 桑名正隆, 宮地良樹	新・膠原病診断と治療のポイント: 皮膚から内臓へ	診断と治療社	東京	2002	78-81
25	尹 浩信	全身性強皮症—分類基準に含まれない皮膚病変	竹原和彦, 桑名正隆, 宮地良樹	新・膠原病診断と治療のポイント: 皮膚から内臓へ	診断と治療社	東京	2002	82-85
26	尹 浩信	全身性強皮症と爪上皮出血点	竹原和彦, 桑名正隆, 宮地良樹	新・膠原病診断と治療のポイント: 皮膚から内臓へ	診断と治療社	東京	2002	130-131

27	伊 浩信	scleroderma spectrum disorder	竹原和彦, 桑名正隆, 宮地良樹	新・膠原病診断と治療のポイント: 皮膚から内臓へ	診断と治療社	東京	2002	174-175
28	遠藤平仁	強皮症腎クリーゼ	竹原和彦, 桑名正隆, 宮地良樹	新・膠原病診断と治療のポイント: 皮膚から内臓へ	診断と治療社	東京	2002	166-167
29	Ogawa Y, Kuwana M, Yamazaki K, Mashima Y, Okamoto S, Tsubota K, Oguchi Y, Kawakami Y	Dry eye associated with chronic graft-versus-host disease: In Lacrimal Gland, Tear Film, and Dry Eye Syndrome 3	Edited by Sullivan DA et al	Basic Science and Clinical Relevance	Kulwer Academic/Plenum Publishers	USA	2002	1041-1045
30	桑名正隆	膠原病とHLA	竹原和彦, 桑名正隆, 宮地良樹	新・膠原病診断と治療のポイント: 皮膚から内臓へ	診断と治療社	東京	2002	10-11
31	桑名正隆	強皮症と肺線維症	竹原和彦, 桑名正隆, 宮地良樹	新・膠原病診断と治療のポイント: 皮膚から内臓へ	診断と治療社	東京	2002	168-171
32	桑名正隆	全身性強皮症—total skin score とその他の重症度	竹原和彦, 桑名正隆, 宮地良樹	新・膠原病診断と治療のポイント: 皮膚から内臓へ	診断と治療社	東京	2002	240-241
33	桑名正隆	強皮症—肺線維症の治療	竹原和彦, 桑名正隆, 宮地良樹	新・膠原病診断と治療のポイント: 皮膚から内臓へ	診断と治療社	東京	2002	272-275
34	桑名正隆	アレルギー性(血管性)紫斑病 (Henoch-Schölein紫斑病)	出口康夫, 石井裕正, 跡見裕, 神保勝一, 橋本信也	実践 診断指針	南江堂	東京	2002	S158-S159
35	桑名正隆	特発性血小板減少性紫斑病	出口康夫, 石井裕正, 跡見裕, 神保勝一, 橋本信也	実践 診断指針	南江堂	東京	2002	S154-S155
36	村田秀行	膠原病とマイクロキメリズム	竹原和彦, 桑名正隆, 宮地良樹	新・膠原病診断と治療のポイント: 皮膚から内臓へ	診断と治療社	東京	2002	30-31
37	大塚 勲	爪郭顕微鏡	小野友道, 宮地良樹, 瀧川雅浩	皮膚科診療Practice 機器を用いたスキנקリニック	診断と治療社	東京	2002	170-171
38	山崎雅英	後天性血栓傾向	中村忍, 中尾眞二	血液疾患臨床ハンドブック	中外医学社	東京	2002	251-265
39	山崎雅英	抗リン脂質抗体症候群	竹原和彦, 近藤啓文	インフォームドコンセントのための図説シリーズ 膠原病. 3. その他の膠原病	医薬ジャーナル社	大阪		印刷中

【雑誌】

	発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
1	Kinbara T, Shirasaki F, Kawara S, Inagaki Y, Benoit de Crombrugge, Takehara K	Transforming growth factor- β isoforms differently stimulate pro $\alpha 2(1)$ collagen gene expression during wound healing process in transgenic mice.	J Cell Physiol	190	375-381	2002
2	Komura K, Sato S, Ishida W, Fujii H, Takehara K	Idiopathic intracranial hypertension with elevated cerebrospinal fluid level of interleukin-6 in a patient with systemic lupus erythematosus	Clin Rheumatol	21	267-268	2002
3	Komura K, Sato S, Fujimoto M, Hasegawa M, Takehara K	Elevated levels of circulating CD44 in patients with systemic sclerosis: association with a milder subset	Rheumatology	41	1149-1154	2002
4	Fujimoto M, Poe JC, Satterthwaite AB, Wahl MI, Witte ON, Tedder TF	Complementary roles for CD19 and Bruton's tyrosine kinase in B lymphocyte signal transduction	J Immunol	168	5465-5476	2002
5	Fujimoto Y, Tu L, Miller AS, Bock C, Fujimoto M, Doyle C, Steeber DA, Tedder TF	CD83 expression influences CD4+T cell development in the thymus	Cell	108	755-767	2002
6	Ihn H, Asano Y, Kubo M, Yamane K, Jinnin M, Yazawa N, Fujimoto M, Tamaki K	Clinical significance of serum surfactant protein D in patients with polymyositis/dermatomyositis: correlation with interstitial lung disease	Rheumatology	41	1268-1272	2002
7	藤本 学	CD19によるB細胞抗原受容体シグナルの制御	臨床免疫	37	414-420	2002
8	藤本 学	Bリンパ球のシグナル伝達と自己免疫	日本臨床免疫学会雑誌	25	244-254	2002
9	藤本 学	強皮症と自己免疫	日本皮膚科学会雑誌	112	785-792	2002
10	Abe M, Yokoyama Y, Amano H, Matsushima Y, Kan C, Ishikawa O	Effect of activated human mast cells and mast-cell-derived mediators on proliferation, type-I collagen production and glycosaminoglycans synthesis by human dermal fibroblasts	Eur J Dermatol	12	340-346	2002
11	Sogabe Y, Akimoto S, Abe M, Ishikawa O, Takagi Y, Imokawa G	Functions of the stratum corneum in systemic sclerosis as distinct from hypertrophic scar and keloid functions	J Dermatol Sci	29	49-53	2002
12	Kan C, Akimoto S, Abe M, Okada K, Ishikawa O	Preliminary thermographic evaluation of new nitroglycerine tape on the peripheral circulatory disturbance in systemic scleroderma	Ann Rheum Dis	61	177-179	2002
13	Nagai Y, Hattori T, Ishikawa O	Unilateral generalized morphea in childhood	J Dermatol	29	435-438	2002
14	長谷川道子, 安部正敏, 石川治	全身性強皮症を合併した尋常性乾癬の1例	臨床皮膚科	56	525-528	2002
15	遠藤雪恵, 石川治	強皮症	治療	84	58-62	2002
16	室 慶直	抗DFS (Dense Fine Speckled) 70抗体	リウマチ科	27	285-291	2002
17	室 慶直, 尾之内博規, 岩井昭樹	SEREX法	臨床皮膚科	56(S)	68-70	2002
18	佐々木哲雄	梅毒性粘膜炎(特集:STD早期診断のために)	Visual Dermatology	1(9)	966-967	2002
19	Aoki A, Okamura M, Ueda S, Ohno S, Hagiwara E, Tsuji T, Misumi M, Kawachi K, Sasaki T, Inoue Y, Ishigatsubo Y	An autopsy case of intravascular lymphomatosis with dermatomyositis	Internal Medicine	41(3)	241-244	2002
20	青木昭子, 大野 滋, 上田敦久, 萩原恵理, 辻 隆, 出口治子, 三角 緑, 佐々木哲雄, 池澤善郎, 稲山嘉明, 井上優子, 石ヶ坪良明	限局性皮膚結節性アミロイドーシスを合併した原発性シェーグレン症候群の2例	日本臨床免疫学会誌	25(2)	205-211	2002

21	岡野絵里子, 佐々木哲雄, 相原道子	ミトコンドリア脳筋症、とくにMELASについて	皮膚病診療	24(1)	35-38	2002
	辻 淳子, 石井則久, 佐々木哲雄, 中嶋 弘	強皮症様皮膚症状と抗リン脂質抗体症候群を伴った慢性GVHD	西日本皮膚科	60(1)		
22	佐藤伸一	強皮症	Monthly Book Derma	63	17-26	2002
23	佐藤伸一	全身性硬化症(強皮症)の診療	リウマチ科	27	672-680	2002
24	佐藤伸一	全身性強皮症-診断基準にとらわれない早期皮膚病変-	診断と治療	90	1398-1402	2002
25	佐藤伸一	強皮症と免疫異常	現代医療	34	1890-1898	2002
26	佐藤伸一, 小寺雅也, 藤井秀孝, 永岡徹也, 濱口儒人, 長谷川稔, 竹原和彦	プロスタグランジン12誘導体制剤であるベラプロストナトリウムの, 膠原病に伴う肺高血圧症に対する効果	臨床と研究	79	322-326	2002
27	佐藤伸一, 竹原和彦	全身性強皮症に伴う逆流性食道炎に対する、クエン酸モサプリドとシサプリドの臨床効果の比較検討	臨床と研究	79	2033-2035	2002
28	Saito E, Fujimoto M, Hasegawa M, Komura K, Hamaguchi Y, Kaburagi Y, Nagaoka T, Takehara K, Tedder TF, Sato S	CD19-dependent B lymphocyte signaling thresholds influence skin fibrosis and autoimmunity in the tight-skin mice	J Clin Invest	109	1453-1462	2002
29	Hamaguchi Y, Nishizawa Y, Yasui M, Hasegawa M, Kaburagi Y, Komura K, Nagaoka T, Saito E, Shimada Y, Takehara K, Kadono T, Steeber DA, Tedder TF, Sato S	Intercellular adhesion molecule-1 and L-selectin regulate bleomycin-induced lung fibrosis	Am J Pathol	161	1607-1618	2002
30	Ihn H, Yamane K, Asano Y, Kubo M, Tamaki K	IL-4 up-regulates the expression of tissue inhibitor of metalloproteinase-2 in dermal fibroblasts via the p38 mitogen-activated protein kinase-dependent pathway	J Immunol	168	1895-1902	2002
31	Ihn H, Tamaki K	Mitogenic activity of dermatofibrosarcoma protuberans is mediated via an extracellular signal related kinase dependent pathway	J Invest Dermatol	119	954-960	2002
32	Ihn H	Pathogenesis of fibrosis: role of TGF- β and CTGF	Curr Opin Rheumatol	14	681-685	2002
33	Ihn H	The role of TGF- β signaling in the pathogenesis of fibrosis in scleroderma	Arch Immunol Ther Exp	50	325-331	2002
34	Ihn H, Asano Y, Kubo M, Yamane K, Jinnin M, Yazawa N, Fujimoto M, Tamaki K	Clinical significance of serum surfactant protein D (SP-D) in patients with polymyositis/ dermatomyositis: Correlation with interstitial lung disease	Rheumatology	41	1268-1272	2002
35	Soma Y, Mizoguchi M, Yamane K, Yazawa N, Kubo M, Ihn H, Kikuchi K, Tamaki K	Specific inhibition of human skin fibroblast chemotaxis to platelet-derived growth factor A-chain homodimer by transforming growth factor- β 1	Arch Dermatol Res	293	609-613	2002
36	Kubo M, Ihn H, Kuwana M, Asano Y, Tamaki T, Yamane K, Tamaki K	Anti-U5 snRNP antibody as a possible serological marker for scleroderma-polymyositis overlap	Rheumatology	41	531-534	2002
37	Kubo M, Ihn H, Asano Y, Yamane K, Yazawa N, Tamaki K	Prevalence of 52-kDa and 60-kDa Ro/SS-A autoantibodies in Japanese patients with polymyositis/ dermatomyositis	J Am Acad Dermatol	47	148-151	2002
38	Jinnin M, Ihn H, Asano Y, Yamane K, Yazawa N, Tamaki K	A case of linear scleroderma with muscle calcification	Br J Dermatol	146	1084-1086	2002
39	Jinnin M, Ihn H, Yamane K, Asano Y, Yazawa N, Tamaki K	Serum levels of tissue inhibitor of metalloproteinases in patients with mixed connective tissue disease	Clin Exp Rheumatol	20	539-542	2002

40	Yamane K, Ihn H, Kubo M, Tamaki K	Increased transcriptional activities of transforming growth factor- β receptors in scleroderma fibroblast	Arthritis Rheum	46	2421-2428	2002
41	Jinnin M, Ihn H, Asano Y, Yamane K, Yazawa N, Tamaki K	Autoimmune response to 52-kDa and 60-kDa Ro/SS-A antigens in mixed connective tissue diseases	Br J Dermatol	147	827-829	2002
42	Kubo M, Ihn H, Yamane K, Tamaki K	Up-regulated expression of transforming growth factor b receptors in dermal fibroblasts of the skin sections from patients with systemic sclerosis	J Rheumatol	29	2558-2564	2002
43	神人正寿、尹 浩信、矢野正一郎、門野岳史、大河内仁志、玉置邦彦	小水疱性天疱瘡の1例	臨床皮膚	56	48-50	2002
44	神人正寿、出月健夫、尹 浩信、大河内仁志、玉置邦彦	全身に皮疹を認めた好酸球性膿疱性毛包炎の1例	皮膚臨床	44	187-191	2002
45	神人正寿、尹 浩信、浅野善英、山根謙一、矢澤徳仁、玉置邦彦	特異な臨床像を示した限局性強皮症の1例	皮膚臨床	44	297-299	2002
46	神人正寿、尹 浩信、浅野善英、山根謙一、矢澤徳仁、朝比奈昭彦、玉置邦彦	強皮症を合併した乾癬	Visual Dermatology	1	518-519	2002
47	尹 浩信	皮膚線維芽細胞とシグナル伝達	現代医療	34	83-87	2002
48	岸本恵美、林伸和、尹 浩信、大河内仁志、菊池かな子、玉置邦彦、内田絹江、石黒達昌、北山丈二、名川弘一	胃癌切除により著明な改善をみた皮膚筋炎	皮膚臨床	44	769-772	2002
49	尹 浩信、三村佳弘、神人正寿、浅野善英、山根謙一、矢澤徳仁、玉置邦彦	全身性強皮症に合併する逆流性食道炎に対するプロトンポンプ阻害剤 rabeprazoleの臨床効果の検討	新薬と臨床	51	872-876	2002
50	尹 浩信、山根謙一、神人正寿、浅野善英、矢澤徳仁、藤本学、玉置邦彦	汎発性強皮症に伴う胃食道逆流症に対するエカベトナトリウム(ガストローム顆粒)の効果 -既存消化器症状治療薬への上乗せ効果の確認-	Pharma Medica	20	191-201	2002
51	尹 浩信、神人正寿、三村佳弘、浅野善英、山根謙一、矢澤徳仁、玉置邦彦	レイノー症状と爪上皮内出血点	Visual Dermatology	2	24-25	2003
52	尹 浩信	混合性結合組織病	Monthly Book Derma	63	37-41	2002
53	尹 浩信	結節性紅斑とその基礎疾患	診断と治療	90	1508-1511	2002
54	尹 浩信	消化器症状の改善によるQOL向上は汎発性強皮症治療の重要ポイント	消化管運動	4	36-37	2002
55	遠藤平仁、栗原夕子、橋本篤、近藤啓文	炎症性疾患とPGE受容体サブタイプ	リウマチ科	27	292-297	2002
56	遠藤平仁、河野静、近藤啓文	消化管にみられる線維症と治療、特集“線維化の分子医学”基礎と臨床	現代医療	35		2003
57	Kuwana M, Kawakami Y, Ikeda Y	Suppression of autoreactive T-cell response to glycoprotein IIb/IIIa by blockade of CD40/CD154 interaction: implications for treatment of immune thrombocytopenic purpura	Blood	101	621-623	2003
58	Kuwana M	Induction of anergic and regulatory T cells by plasmacytoid dendritic cells and other dendritic cell subsets	Hum Immunol	63	1156-1163	2002
59	Kuwana M, Kimura K, Kawakami Y	Identification of an immunodominant epitope on RNA polymerase III recognized by systemic sclerosis sera: application to enzyme-linked immunosorbent assay	Arthritis Rheum	46	2742-2747	2002
60	Kuwana M, Kimura K, Hirakata M, Kawakami Y, Ikeda Y	Differences in anti-Th/To autoantibody response between systemic sclerosis and other autoimmune diseases	Rheum Dis	61	842-846	2002

61	Kuwana M, Okazaki Y, Kajihara M, Kaburaki J, Miyazaki H, Kawakami Y, Ikeda Y	Autoantibody to c-Mpl (thrombopoietin receptor) in systemic lupus erythematosus: relationship to thrombocytopenia with megakaryocytic hypoplasia	Arthritis Rheum	46	2148-2159	2002
62	Kuwana M, Okazaki Y, Kaburaki J, Kawakami Y, Ikeda Y	Spleen is a primary site for activation of platelet-reactive T and B cells in patients with immune thrombocytopenic purpura.	J. Immunol	7	3675-3682	2002
63	Yoshida K, Arai T, Kaburaki J, Ikeda Y, Kawakami Y, Kuwana M	Restricted T cell receptor b-chain usage by T cells autoreactive to β 2-glycoprotein I in patients with antiphospholipid syndrome	Blood	99	2499-2504	2002
64	桑名正隆	Cutting Edge - 抗リン脂質抗体症候群	Medical Science Digest	29	4-5	2003
65	鎌木淳一、桑名正隆、池田康夫	膠原病における血栓症-抗リン脂質抗体症候群における血清中自己抗体の多様性	臨床血液	43	454-458	2002
66	桑名正隆	I TPの発症機序	The World on Hematology	14	2-3	2002
67	桑名正隆	血小板減少症と抗リン脂質抗体、抗血小板抗体	リウマチ科	28	340-347	2002
68	桑名正隆	膠原病の病態と自己抗原反応性T細胞	アレルギー・免疫	9	40-46	2002
69	桑名正隆、佐藤伸一、近藤啓文、竹原和彦	全身性強皮症患者の評価法	リウマチ	42	654-665	2002
70	桑名正隆	検査値から読む病態と診断計画: 抗SS-A/Ro抗体、抗SS-B/La抗体、抗Scl-70(トポイソメラーゼI)抗体	臨床医	28(増刊号)	1152-1154	2002
71	鎌木淳一、桑名正隆、上原理恵、大矢和彦	抗フォスファチジルセリン・プロトロンビン複合体抗体(抗プロトロンビン抗体)を測定するELISAキットの開発	医学と薬学	47	813-819	2002
72	Kawaguchi Y, Harigai M, Hara M, Fukasawa C, Takagi K, Tanaka M, Tanaka E, Nishimagi E, Kamatani N	Expression of hepatocyte growth factor and its receptor (c-met) in skin fibroblasts from patients with systemic sclerosis	J Rheumatol	29	1877-1883	2002
73	Sugiura T, Kawaguchi Y, Harigai M, Terajima-Ichida H, Kitamura Y, Furuya T, Ichikawa N, Kotake S, Tanaka M, Hara M, Kamatani N	Association between adult-onset still's disease and interleukin-18 gene polymorphisms	Genes and Immunity	3	394-399	2002
74	Sugiura T, Harigai M, Kawaguchi Y, Takagi K, Fukasawa C, Ohsako-Higami S, Ohta S, Tanaka M, Hara M, Kamatani N	Increased IL-15 production of muscle cells in polymyositis and dermatomyositis	International Immunology	14	917-924	2002
75	Tanaka E, harigai M, tanaka M, kawaguchi Y, Hara M, Kamatani N	Pulmonary hypertension in systemic lupus Erythematosus: Evaluation of clinical Characteristics and response to immunosuppressive treatment	J Rheumatol	29	282-287	2002
76	Tahashi Y, Matsuzaki K, Date M, Yoshida K, Furukawa F, Sugano Y, Matsushita M, Himeno Y, Inagaki Y and Inoue K	Differential regulation of TGF- β signal in hepatic stellate cells between acute and chronic rat liver injury	Hepatology	35	49-61	2002
77	Furuya H, Watanabe T, Sugioka Y, Inagaki Y and Okazaki I	Effect of ethanol and docosahexaenoic acid on nerve growth factor-induced neurite formation and neuron specific growth-associated protein gene expression in PC12 cells	Jpn J Alcohol Drug Dependence	37	513-522	2002
78	岡崎 勲、渡辺 哲、稲垣 豊	肝線維化研究の進歩	日本消化器病学会雑誌	99	353-364	2002
79	稲垣 豊	Smad蛋白によるコラーゲン遺伝子の転写制御	医学のあゆみ	201	907-909	2002

80	Inagaki Y, Nemoto T, Nakao A	Transcriptional regulation of type I-collagen gene expression by transforming growth factor- β /Smad signaling and its antagonistic factors	Connective Tissue	34	139-146	2002
81	Ohtsuka T, Yamakage A, Yamazaki S	The effect of extracorporeal photochemotherapy on α (I) and α (III)procollagen mRNA expression in sclerodema skin tissue	Arch Dermatol Res	293	642-645	2002
82	Ohtsuka T, Yamakage A, Yamazaki S	The polymorphism of telomerase RNA component gene in patients with systemic sclerosis	Br J Dermatol	147	250-254	2002
83	Ohtsuka T, Yamakage A, Yamazaki S	The polymorphism of transforming growth factor-beta 1 gene in Japanese patients with systemic sclerosis	Br J Dermatol	147	458-463	2002
84	Sirikong M, Tsuchiya N, Chandanayingyong D, Bejrachandra S, Suthipinittharm P, Luangtrakool K, Srinak D, Thongpradit R, Siriboonrit U, Tokunaga K	Association of HLA-DRB1*1502 - DQB1*0501 haplotype with susceptibility to systemic lupus erythematosus in Thais	Tissue Antigens	59	113-117	2002
85	Kyogoku C, Dijkstra HM, Tsuchiya N, Hatta Y, Kato H, Yamaguchi A, Fukazawa T, Jansen MD, Hashimoto H, van de Winkel JGJ, Kallenberg CGM, Tokunaga K	Fc γ receptor gene polymorphisms in Japanese patients with systemic lupus erythematosus: Contribution of FCGR2B to the genetic susceptibility to SLE	Arthritis Rheum	46	1242-1254	2002
86	Kuroki K, Tsuchiya N, Tsao BP, Grossman JM, Fukazawa T, Hagiwara K, Kano H, Takazoe M, Iwata T, Hashimoto H, Tokunaga K	Polymorphisms of human CD19 gene: Possible association with susceptibility to systemic lupus erythematosus in Japanese	Genes Immun	3 Suppl 1	S21-30	2002
87	Kawasaki A, Tsuchiya N, Fukazawa T, Hashimoto H, Tokunaga K	Analysis on the association of human BLYS (BAFF, TNFSF13B) polymorphisms with systemic lupus erythematosus and rheumatoid arthritis	Genes Immun	3	424-429	2002
88	Sato M, Ohashi J, Tsuchiya N, Kashiwase K, Ishikawa Y, Arita H, Hanaoka K, Tokunaga K, Yabe T	Association of HLA-A*3303-B*4403-DRB1*1302 haplotype, but not of TNF α promoter and NKp30 polymorphism, with postherpetic neuralgia (PHN) in the Japanese population	Genes Immun	3	477-481	2002
89	Kyogoku C, Tsuchiya N, Matsuta K, Tokunaga K	Studies on the association of Fc γ receptor II A, II B, III A and III B polymorphisms with rheumatoid arthritis in Japanese: Evidence for a genetic interaction between HLA-DRB1 and FCGR3A	Genes Immun	3	488-493	2002
90	Tsuchiya N, Ohashi J, Tokunaga K	Variations in immune response genes and their associations with multifactorial immune disorders	Immunol Rev	190	169-181	2002
91	Kyogoku C, Tsuchiya N, Shibue T, Tokunaga K, Matsuta K	TNFR2 position 196 polymorphism in Japanese patients with rheumatoid arthritis: comment on the article by Dieud et al [letter]	Arthritis Rheum	48	273-274	2003
92	Sekiya T, Tsunemi Y, Miyamasu M, Ohta K, Morita A, Saeki H, Matsushima K, Yoshie O, Tsuchiya N, Yamaguchi M, Yamamoto K, Tamaki K, Hirai K	Variations in the human Th2-specific chemokine TARC gene	Immunogenetics	54	742-745	2003
93	Hikami K, Tsuchiya N, Yabe T, Tokunaga K	Variations of human killer cell lectin-like receptors : common occurrence of NKG2-C deletion in the general population	Genes Immun	(in press)		

94	Tsuchiya N, Kobayashi S, Kawasaki A, Kyogoku C, Arimura Y, Yoshida M, Katsushi Tokunaga K, Hashimoto H	Genetic background of Japanese patients with ANCA-associated vasculitis: Association of HLA-DRB1*0901 with microscopic polyangiitis	J. Rheumatol	(in press)		
95	Siriboonrit U, Tsuchiya N, Sirikong M, Kyogoku C, Bejrachandra S, Suthipinittharm P, Luangtrakool K, Srinak D, Thongpradit R, Fujiwara K, Chandanayingyong D, Tokunaga K	Association of Fc γ receptor IIB, IIIA and IIIB polymorphisms with susceptibility to systemic lupus erythematosus in Thais	Tissue Antigens	(in press)		
96	櫻井大祐, 土屋尚之	慢性関節リウマチ患者滑膜におけるID遺伝子群の発現	臨床免疫	37	184-190	2002
97	大橋順, 土屋尚之, 徳永勝士	HLA遺伝子と人類遺伝学	分子細胞治療	1	428-433	2002
98	黒木喜英子, 土屋尚之	リウマチ・膠原病のゲノム解析	アレルギー・免疫	9	997-1005	2002
99	櫻井大祐, 土屋尚之	RA疾患感受性遺伝子, 増悪関連遺伝子研究の現状	The Bone	16	463-468	2002
100	土屋尚之	全身性エリテマトーデス, 関節リウマチ疾患感受性遺伝子研究の現状	医学のあゆみ	202	815-820	2002
101	土屋尚之	血清反応陰性脊椎関節症とHLA	リウマチ科	28	295-302	2002
102	川崎 綾, 土屋尚之	BLySとリウマチ性疾患	医学のあゆみ	203	481-484	2002
103	土屋尚之	リウマチ性疾患の遺伝疫学	現代医療	35	111-119	2003
104	Yamazaki M, Kaneda M, Asakura H, Nakao S, Triplett DA	Heterogeneities of lupus anticoagulant antibodies (LA): Different ligand-specificities determine clinical features of antiphospholipid syndrome (APS); Each LA demonstrates different hemostatic effect in vitro	Immunobiology	205(2)	182-183	2002
105	Yamazaki M, Kaneda M, Yoshida T, Ontachi Y, Mizutani T, Ito T, Asakura H, Nakao S	Heterogeneity of lupus anticoagulant antibodies (LA): Different ligand-specificities determine a clinical features of APS	Lupus	11(9)	606	2002
106	Yamazaki M, Yoshida T, Kaneda M, Ontachi Y, Mizutani T, Ito T, Asakura H, Nakao S	High incidence of arterial thrombosis due to antiphospholipid antibodies in patients with Evans' syndrome; significance of detecting lupus anticoagulant as a predictor	Lupus	11(9)	607	2002
107	Yamazaki M, Takami A, Asakura H, Nakao S	Rituximab reduces antiphospholipid antibody (APA) titers and improves hypercoagulability in patients with antiphospholipid syndromes (APS)	Blood	100(11)	269a	2002
108	Asakura H, Okudaira M, Yoshida T, Ontachi Y, Yamazaki M, Morishita E, Miyamoto KI, Nakao S	Induction of vasoactive substances differs in LPS-induced and TF-induced DIC models in rats	Thromb Haemost	88(4)	663-667	2002
109	Ontachi Y, Asakura H, Takami A, Mizutani T, Kato M, Ito T, Saito M, Morishita E, Yamazaki M, Hayashi S, Minami S, Nakao S	A case of cardiac B cell lymphoma complicated by hemophagocytic syndrome	Haematologica	87(8)	ECR27	2002
110	Asakura H, Ichino T, Yoshida T, Suga Y, Ontachi Y, Mizutani T, Kato M, Ito T, Yamazaki M, Aoshima K, Morishita E, Saito M, Miyamoto KI, Nakao S	Beneficial effect of JTV-803, a new synthetic inhibitor of activated factor X, against both lipopolysaccharide-induced and tissue factor-induced disseminated intravascular coagulation in rat models	Blood Coagul Fibrinolysis	13(3)	233-239	2002

111	Asakura H, Suga Y, Aoshima K, Ontachi Y, Mizutani T, Kato M, Saito M, Morishita E, Yamazaki M, Takami A, Yoshida T, Miyamoto KI, Nakao S	Marked difference in pathophysiology between tissue factor- and lipopolysaccharide- induced disseminated intravascular coagulation models in rats	Crit Care Med	30(1)	161-164	2002
112	吉田知孝、朝倉英策、表英香、山雅英、森下英理子、中尾眞二	ループスアンチコアグラント検査におけるカオリン凝固時間混合試験のコントロール血漿の重要性について	日本血栓止血学会雑誌	13(2)	187-190	2002
113	菅幸生、朝倉英策、吉田知孝、森下英理子、山雅英、青島敬二、御館靖雄、水谷朋恵、加藤みのり、伊藤貴子、宮本謙一、中尾眞二	組織因子およびLPS誘発ラットDICモデルの経時的病態比較	日本血栓止血学会雑誌	13(1)	41-46	2002
114	菅幸生、朝倉英策、吉田知孝、森下英理子、山雅英、青島敬二、御館靖雄、水谷朋恵、加藤みのり、伊藤貴子、宮本謙一、中尾眞二	LPS誘発ラットDICモデルにおけるエンドセリンの役割	日本血栓止血学会雑誌	13(2)	169-174	2002
115	佐野陽子、朝倉英策、吉田知孝、浅村梨沙、山雅英、森下英理子、御館靖雄、水谷朋恵、加藤みのり、伊藤貴子、宮本謙一、中尾眞二	組織因子誘発ラットDICモデルにおける出血症状・臓器症状の発現機序	日本血栓止血学会雑誌	13(4)	319-325	2002
116	佐野陽子、朝倉英策、吉田知孝、浅村梨沙、山雅英、森下英理子、御館靖雄、水谷朋恵、加藤みのり、伊藤貴子、宮本謙一、中尾眞二	ラットDICモデルにおける血管作動性物質の変動“抗凝固薬投与に伴う影響“	日本血栓止血学会雑誌	13(6)	485-492	2002
117	麦井直樹、塩谷真美、島崎悦子、染矢富士子、佐藤伸一他	間質性肺炎を伴った全身性強皮症に対するリハビリテーション-呼吸管理下リハビリテーションが有効であった1例-	総合リハビリテーション	30	563-566	2002